

令和3年10月25日（月）  
令和3年度第2回始良・伊佐保健医療圏  
地域医療構想調整会議  
＜資料1-②＞

## 【霧島市立医師会医療センター】

- 新公立病院改革プラン（H30.11.15 調整会議で合意済）
- 霧島市立医師会医療センター基本設計概要等について  
（令和3年度第1回始良・伊佐保健医療圏地域医療構想調整会議（R3.7.8）資料2-①）



## ● 霧島市立医師会医療センター

### ① 地域での役割

#### ○救急医療

- ・小児科・内科夜間救急診療や二次救急の病院群輪番制
- ・循環器救急（CCU）輪番制病院，脳神経外科夜間休日輪番制病院  
ドクターヘリの受け入れ病院としての中心的な役割

#### ○がん医療

- ・がん診療指定病院として外科的治療や化学療法，緩和ケアを重点的に行う。
- ・消化器がんを中心に外科的治療を強化し，より高度・専門的な医療を担う。
- ・肺がんは，南九州病院との連携を図り，乳がんなどは鹿児島医療圏との連携を推進
- ・増加する医療需要に対応する為，健診から緩和ケアまで様々なステージの患者を幅広く受け入れる機能を整備する。

#### ○急性期医療の質の向上

- ・消化器領域…高度で専門的な検査・治療の体制を充実させ，引き続き24時間緊急内視鏡に対応する。  
鹿児島大学との連携のもと，若手医師の研修の場として役割を果たす。
- ・循環器領域…救急心臓疾患をいつでも受け入れる体制を整備する。  
循環器ネットワークの中核病院として，カテーテル検査・治療などの専門的な治療を積極的に行う（透析患者も受け入れる）。  
高齢者に多い複数の基礎疾患を有する患者は，医療センターでの受け入れ機能を強化し，地域で医療が完結するための体制を整備する。
- ・各専門分野の専門医，認定看護師，薬剤師を核としたチーム医療の積極的な推進
- ・合併症で周術期の集中管理や透析管理が必要な患者に対応する為，麻酔・救急専門医の確保を行う。
- ・死因の第3位をしめる肺炎については，呼吸器内科専門の常勤化を図りつつ国立病院機構南九州病院との連携を継続する。

#### ○小児医療

- ・平成28年4月から小児診療を再開し，小児入院体制の強化及び小児外科への対象領域の拡大を目指す。
- ・更なる常勤小児科医の増員による24時間小児科医療の充実（平成28年4月～）

#### ○感染症及び災害発生時の拠点病院としての役割

- ・県が指定する第2種感染症指定医療機関として機能する。
- ・災害時には，消防・警察等の関係機関と連携を促進し災害拠点病院としての役割を担う。

#### ○へき地医療拠点病院としての役割

- ・県内のへき地医療の中核として離島などの病院診療所に医師派遣・画像読影等の協力を行う。

### ② 他の医療機関とのネットワーク化

- ・霧島市内に11の民間病院，始良市に1公的病院，8民間病院，その他地区に1公的病院，6民間病院があり，患者の疾患領域や重症度に応じて，地域の病院との病病連携を図るとともに，かかりつけ医との病診連携を推進し，地域医療支援病院として役割を果たす。  
（日頃の健康管理はかかりつけ医で，専門的な治療・検査は医療センターの担当医と2人の主治医をもつ「地域2人主治医制」を推進する。）

### ③ 今後の課題と方針

#### ○救急医療機能

- ・常勤の麻酔医をはじめとする医師の確保を進める必要がある。
- ・医師の負担増や高齢化に対応する為，常勤医の確保，クランクの業務見直し等の軽減対策を図る。

○高度で専門的ながん医療

- ・鹿児島県がん拠点病院として外科的治療や化学療法，緩和ケア等を重点的に行う。
- ・化学療法については，平成29年1月から外来化学療法室を新手術棟に移設し，療養環境の充実と化学療法認定薬剤師や認定看護師などの専門性を有した安全な体制で受け入れを強化する。
- ・医療センターが得意とする肝がんをはじめとする消化器系のがんについては受け入れを推進
- ・健診から緩和ケアまで一貫した医療機能を担う為，平成28年4月から緩和ケア病棟を設置し，がんと診断されてから外来・入院・在宅の療養機関を通して切れ目のない医療を地域で継続して実施
- ・健診にも力を入れ，早期発見・治療に貢献する

○消化器疾患の治療

- ・内視鏡専門医研修病院，消化器内視鏡学会，消化器病学会，日本超音波学会の認定指導施設であり，鹿児島大学との連携により高度な医療を提供している。
- ・肝膵胆疾患の内視鏡をはじめとして，24時間緊急内視鏡に対応する。

○循環器疾患の治療

- ・緊急心臓疾患をいつでも受け入れる体制の整備と不整脈治療に対するペースメーカー植込術も積極的に実施
- ・24時間365日の受け入れを目指す。

○チーム医療

- ・化学療法や認知症をはじめとした認定看護師の育成や薬剤師の病棟業務，疾患別リハビリテーションの充実を推進するなど，専門職種の積極的活用と多職種間協働を図ることにより，急性期医療の質を高め効率的な医療サービスの提供を進める。

○小児医療

- ・平成28年4月から小児科再開を行い，急性期入院医療を中心に患者の受け入れを行う。
- ・小児外科を新設し，広域での対応を行う中核機能を担う。

○感染症及び災害発生時の拠点病院としての役割

- ・第2種感染症指定医療機関として第一戦の医療の提供を行う。
- ・始良・伊佐保健医療圏域南部の災害拠点病院として傷病者の受け入れやDMATの派遣を行う。

○へき地医療拠点病院

- ・県内のへき地医療の中核として，離島などの病院診療所に医師派遣・画像読影等の協力を行う。

○医師・看護師等の確保及び育成

- ・既存医師の定着や新規医師獲得の為の処遇改善
- ・看護師・薬剤師・コメディカルの人材育成と定着，新規人材の獲得
- ・基礎型研修病院，専門医研修施設として医師の受け入れ，育成に貢献し，専門的な医療職の育成に努める。

○住民理解の為の取り組み

- ・医療センターの経営状況や新改革プランの実施状況の情報をホームページや広報誌を通じて積極的に情報提供を行う。

○4機能ごとの病床のあり方について

	平成28年度病床機能報告（現在）	2025年度（将来）
高度急性期		
急性期	254（休床7を含む）	219
回復期		35
慢性期		
計	254（休床7を含む）	254

平成29年2月休床解消

【2025年に向けた具体的な計画】

霧島市立医師会医療センター

① 4機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	254		219
回復期			35
慢性期			
(合計)	254		254

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	地域に不足する回復期機能を提供するため、西病棟1階を急性期から回復期に変更	2016年10月～2017年1月 地域包括ケア病棟(35床)工事 2017年2月開設～5月(急性期) 2017年6月開設(回復期)	
2018年度			
2019～2020年度			
2021～2023年度			



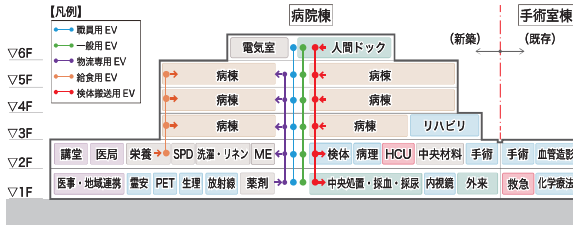
1. 施設のコセプト

■設計のコセプト

1. 患者への看護が行き届く全室個室型病院
2. 患者・家族等利用者の視点に立った、快適な療養環境の提供
3. 地域医療支援病院として、診療機能を効率的に発揮できる機能的な病院
4. 地域災害拠点病院として、安心・安全で災害に強い病院
5. 工事中における既存病院の診療継続に配慮した建替え計画と、将来増築への対応
6. 未永く市民に親しまれ、安心の拠点となる建築デザイン

■デザインのコセプト

新病院は先進的な医療施設としての佇まいに「霧島らしさ」を「和える」ことで、先進性と地域性の双方の魅力を引き出し、悠久の歴史を引継ぎ、次世代へとつなぐ新たなデザインを目指す。



2. 敷地概要

施設名称	霧島市立医師会医療センター
所在地	鹿児島県霧島市隼人町松永 3320
敷地面積	44,189.978 m <sup>2</sup> (測量面積)
用途地域	都市計画区域内 用途地域指定なし

3. 建築概要

延べ面積	27,182.27 m <sup>2</sup> (うち新築 病院棟: 23,192.20 m <sup>2</sup> / その他附属棟合計: 420.02 m <sup>2</sup> )
階数	地上 6 階・地下無し
病床数	254 床 (うち一般病床: 250 床 / 感染症病床: 4 床)
診療科	24 科
その他	駐車場 (約 600 台)、駐輪場

4. 設備概要

BCP (事業継続計画)	2 回線受電 / 3 日分の燃料備蓄 (通常時の 6 割利用)、受水槽に 3 日分の水量を貯水、非常用発電機の設置 (既存浄化施設も含む)、食料・飲料水・医薬品を 3 日分確保
環境配慮	高効率設備 (変圧器・空冷チラー) の採用、LED 照明器具や昼光センサーによる自然光利用、吹抜けを利用した重力換気、Low-e ガラスによる熱負荷の低減

5. 概算工事費

工事費	約 135 億円 (新病院建設工事、外構工事、ヘリポート工事、既存手術室棟改修工事) ※今後、実施設計において精査 (解体工事費、医療機器等整備費、家具什器備品 等含まず)
-----	--

6. スケジュール

	2020 令和 2 年	2021 年度 令和 3 年度	2022 年度 令和 4 年度	2023 年度 令和 5 年度	2024 年度 令和 6 年度	2025 年度 令和 7 年度	2026 年度 令和 8 年度	2027 年度 令和 9 年度
基本設計								
EI 発注								
実施設計								
開院準備								
新病院棟新築工事								
既存改修・解体・外構工事								
★新病院開院								
★グラウンドオープン								

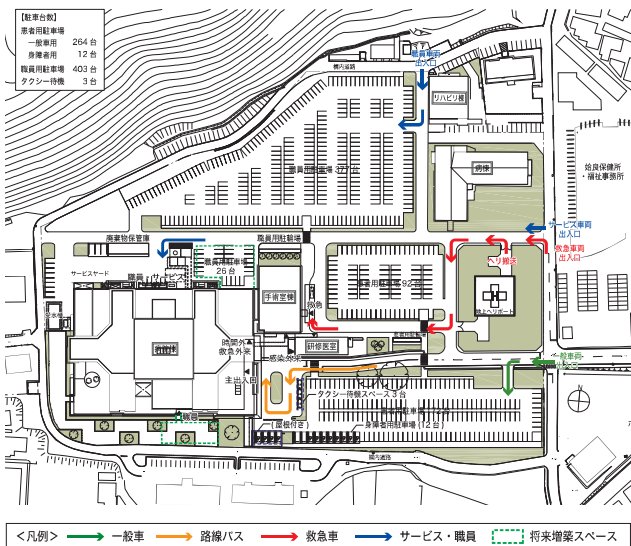
7. 配置計画

■建物配置・動線計画

- ・既存手術室棟との繋がりに配慮し、敷地南西側に位置する校舎の眺望を病棟から眺められる配置とする。
- ・敷地東側に地上ヘリポート (飛行場外離着陸場) を整備する。
- ・一般車両 (患者・家族、公共交通 (バス、タクシー) は既存病院のアプローチ路を延伸した計画とする。
- ・病院棟の主出入口前に設けるメインロータリーは、路線バスが回転できる広さを確保する。また、タクシー待機スペース (3 台分) を確保する。
- ・救急車両、サービス車両の出入口は、メインアプローチとは別に地上ヘリポート北側に整備し、一般車両との動線交錯を少なくする。

■駐車場計画

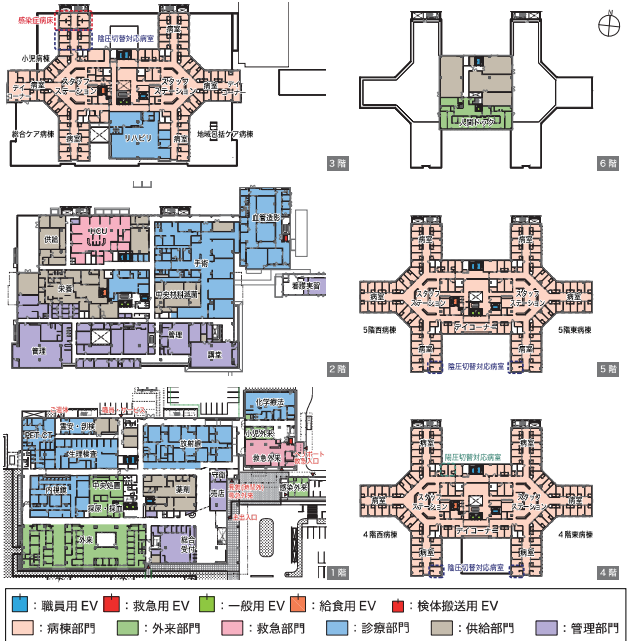
- ・患者用駐車場は病院棟東側に約 260 台整備する。
- ・身障者用駐車場はメインロータリーに面した位置に計 12 台分を確保する。



8. 平面計画

■各階平面

- ・1 階は外菜機能を集約し、フロア内を回避できる動線により、患者同士の交錯を減らし、安全かつ明快的な外来を計画する
- ・2 階は管理機能を環境の良い南側に集約し、中央診療機能は既存手術室棟と一体的に整備する。搬送の利便性に配慮して供給部門を配置する。
- ・3 階は総合ケア・地域包括ケア・小児の各病棟は療養環境に配慮し接地性のある階に計画する。
- ・4 階、5 階は看護動線が短く、見守りしやすい 1 看護 44 床の全室個室病棟として計画する。
- ・6 階は眺望の良い最上階に人間ドックを配置する。



## 霧島市立医師会医療センター新築に関する病床機能の変更について

	現在（2020年度報告）	2025年度（将来）
高度急性期		10
急性期	180	205
回復期	70	35
慢性期		
計	250	250